

# 令和6年 第4回 武豊町教育委員会 会議録

開催日 令和6年4月11日(木)

場 所 武豊町役場 全員協議会室

教 育 長 榊原 寛二

教育長職務代理者 堤田 綾子

委 員 小藤 省吾

委 員 浅野俊太郎

委 員 鋤柄佐千子

出席職員の氏名

教 育 部 長 近藤 昭子

生涯学習スポーツ課長兼中央公民館長 横田 寛

歴史民俗資料館長 山下 恵広

生涯学習スポーツ課課長補佐 神谷 芳美

給食センター所長 青木 隆

学校教育指導主事 神谷 俊輔

学 校 教 育 課 長 森田 光一

町民会館事務長 長谷川貴彦

生涯学習スポーツ課課長補佐 栗田 宗広

町民会館事務長補佐 森田 明男

学校教育課課長補佐 小坂井絵美

学校教育指導主事 小田島 健

：欠席者

## 1. 開会 午後1時30分

## 2. 開会宣言並びに第3回定例会 会議録の承認

(教育長) 出席委員4名を確認し、会議の成立及び第4回定例会の開会を宣言します。

(教育部長) 次に前回の会議録のご承認をお願いします。会議録につきましては事前にお渡ししておりますので、すでにご確認いただいていると思います。この会議録について、ご意見、ご質問等あればお願いします。

《意見なし》

(教育部長) 特にご意見等もないようですので、前回の会議録は承認とします。会議録への署名は、この会議が終わりましたら、担当がお願いに行きますので、よろしくをお願いします。

(教育部長) それでは教育長報告をお願いします。

## 3. 教育長報告

3月 7日 (木) ・ 定例教育委員会

3月 8日 (金) ・ 学校運営研究会

3月11日 (月) ・ 町教職員安全衛生委員会

3月13日 (水) ・ 文教厚生委員会

3月15日 (金) ・ 定例校長教委管理職会議

3月18日 (月) ・ 表敬訪問 スポーツ鬼ごっこ

I O A U-9 ワールドカップ2024 出場予定

(令和6年3月開催) 武豊小3年生

- 3月19日(火) ・武豊小卒業式(堤田委員)
- 3月21日(木) ・教育部内 部活動関連会議
- 3月22日(金) ・婦人会総会
- 3月29日(金) ・各種退職者辞令
- 4月 1日(月) ・学校管理職辞令交付式 ・教育委員会辞令交付式
- 4月 3日(水) ・知教協
- 4月 4日(木) ・衣浦小入学式
- 4月 5日(金) ・武豊中入学式(小藤委員)
- 4月 6日(土) ・湿地を守る会総会
- 4月 8日(月) ・武豊高校入学式
- 4月11日(木) ・定例教育委員会

#### 4. 議 事

(教育部長) 続きまして議事ではありますが、本日議事はありません

#### 5. 報告事項

(教育部長) 続いて、報告事項に移ります。

(1) 令和6年度 学校役職員及び教育委員会事務局管理職・異動職員名簿について

(指導主事) 資料1の説明

- ・学校では、小学校の教頭4名、教務主任1名、校務主任2名が異動により変わった
- ・事務局の異動は備考欄に前年度の課を記載

(2) 令和5年度 後援申請一覧(後期分)について

(学校教育課 課長補佐) 資料2の説明 後期申請分 1件

(生涯学習スポーツ課課長補佐) 生涯学習課 後期申請分 9件

(町民会館事務長) 町民会館 後期申請分 10件

(生涯学習スポーツ課課長補佐) スポーツ課 後期申請分 7件

(3) 令和5年度 小中学校月別残食率について

(給食センター所長) 資料3の説明

- ・中学生の残食がやや増加し、小学生との間の差が縮まった。
- ・完食を強制する時代ではないが、残食を少なくする取組は今後も継続予定。

(4) ゆめたろう塾実績報告について

(生涯学習スポーツ課課長補佐) 資料4の説明 令和5年度実績について

- ・土曜日の午前中 毎月2回 年間 24 回実施
- ・参加延べ人数 226 名(1回につき平均 10 名程度が参加)

(5) 令和6年度 武豊町教育委員会点検評価委員会(令和5年度分)について

(指導主事) 資料5の説明

- ・令和6年度教育委員会点検評価委員会を 7月25日(木)に予定
- ・新型コロナウイルス感染症への対応を削除

(6) 学校の近況について

(指導主事) 資料の説明 各校の様子や新体制等について、宿泊行事等について

(7) 当面する行事予定について

(指導主事) 資料6について説明(4月～7月)

## 6. その他

(1) 町民会館より

- ・各種事業について資料当日配付

(2) 生涯学習スポーツ課より

- ・三井家展について

(教育部長) それでは、教育委員さんからお気づきの点があればお願いします。

(教育委員)

- ・今年度から、武豊町内の小中学校でも男女混合名簿が始まりました。何かしらの混乱が生じるのではないかと思い、入学式でも様子を見させていただきましたが、子どもたちはすぐに順応して過ごしている様子でした。もちろん体育授業や身体測定など男女別で行うことが必要なこともあろうかと思いますが、ジェンダー平等が言われる時代ですので、この取組はとてもよいものであると思います。
- ・4月に配付された給食献立表には、町から1食あたりいくらの補助がされている旨の記載がありました。本当はこれだけの費用がかかるところを、町からの補助によって負担軽減がされていることが、保護者へ伝わるとよいと感じています。
- ・入学始業式後の4月当初は、子どもたちが昼過ぎには下校している様子を見かけました。児童生徒の下校後に、先生方は新年度の会議や新学期、新しい学級のための時間をとっているものかと思います。新年度、余裕をもってこういった事務仕事に当たるためにも、無理をして授業を早く進める必要はないのではないかと感じています。先生方には、ご自身の健康にも気を使って1年間子どもたちと向き合い、頑張っていたきたいと年度の初めに思いました。

## (教育委員)

- ・ 今年も3月の卒業式と4月の入学式に出席をさせていただきました。昨年度、他の委員からもお話がありましたが、小学校の入学式は賑やかで、ちょこちょこ動いていた新入生が、6年経って卒業を迎えるころには、こんなにも立派に成長するのだということを改めて実感しました。それと同時に、卒業式には在籍する子どもたち全員が出席し、皆が呼名され、卒業証書を受け取れるとよいと思いました。これは理想でもあり目標でもあります。不登校ゼロを目指して町内で取り組んでいただいている学校もあります。その取組を他校でも取り入れ、形骸化させず、継続していただきたいです。入学式・卒業式では子どもたちだけでなく、保護者の方も晴れやかな顔で出席されていました。小学校6年間、中学校3年間この晴れやかな顔が続いてほしいと願っています。不登校になる前には、前兆・予兆があるかと思います。それを周りの大人がいかにか早く発見し、早期に対応していくかが大切だと思います。
- ・ 子どもたちの問題に速やかに対応するためにも、まず先生方が健康であることが大切です。昨年度の新任の先生方には、先生たちが心身ともに健康であって初めて子どもたちへよい教育ができるというお話をさせていただきました。大変なお仕事だと思いますが、互いにフォローし合い、チーム学校で対応していただきたいと思います。
- ・ 制服について、今年度中学校の入学式で、セーラー服姿ではない女子生徒を見かけました。それが、男女混合名簿のおかげか、大きく目立つことなく式が進んでいたように思います。令和7年度にはブレザーの新制服も導入されます。こういった子たちの思いを汲んで、学校は柔軟に対応できるように、様々な施策を生かしてもらえるとよいと思います。

## (教育委員)

- ・ 新年度、新体制になって初めての定例教育委員会です。本日は欠席の方もお見えですが、昨年度と比べて、この会の出席者も町の組織再編によって2名減となりました。単純に考えても、生涯学習課とスポーツ課という2つの課が1つになったのですから、業務量は2倍、場合によってはそれ以上になることもあるでしょう。さまざまな混乱が生じることも予想されます。該当課だけでなく、他のいろいろな部署にも協力していただいて、負担の無い形でスタートできるとよいと思います。
- ・ ドラマ「下町ロケット」のモデルとなった植松電機の代表取締役社長である植松勉さんの言葉が YouTube にアップロードされており、これがなかなかよい言葉であったので紹介します。タイトルは「人を助けるのに必要なことは3つ」です。  
『子どもたちの中には、将来人の役に立つ仕事に就きたいと思っている人がたくさんいます。だとしたら、やらなくてはならないことが明確にあります。それは勉強を頑張ることではなく、いい会社に入ることでもありません。実は、人を助けるために必要なのはたった3つしかありません。まず1つ目、助けたい相手を勝手に観察するのです。よく観察するのです。そして2つ目、勝手に予測するのです。この後どうなるかなと予想します。両手が荷物でふさがっていると、ドアのところに言ったら困るだろうとか、重たいものを持っていると腰が痛くなるかもしれないなどと、勝手に予測するのです。最後にいよいよ3つ目、勝手に自分ならどうするかを考えるのです。体力に自信があるならば荷物を持ってあげようかと言ってもいいのです。』

そうではないとしても、先回りして、ドアを開けてあげることもできるのです。実は自分にはできることがたくさんあります。人を助けるために必要なのは、成績や能力ではありません。人を助けるために必要なものは、全ての人が元々もっている思いやりとやさしさなのです。』

- ・ 教育の現場でインクルーシブ教育が言われるようになって、何年になるでしょうか。障害の有無で子どもを差別しないで、同じ場所で一緒に学ぶ教育、これがインクルーシブ教育かと思います。口で言うのは簡単ですが、実施する際には様々なハードルがあるかと思います。そもそも子どもたちに経験がなく、例え先生に仲良くしましょうと言われたとしても、なかなか行動に移しにくいことも予想されます。植松さんが言われていることを、教育と関連付けて考えるのであれば、先生に言われたから行動するという子どもを育てるのではなく、子ども一人ひとりに何ができるのか、他の子に対して何をしあげられるのかということ、自分の頭で考える機会を作ることが教育であり、主体的な学びとなるでしょう。このことが子どもたちの小さいころから習慣づけられていれば、大人になり社会に出たときに、自分には何ができるかということを考えられる人を育てられると思います。

新しい学年がスタートし、新しい学級で子どもたちが生活する中で、先生方には、ただ単に仲良くしましょうと言うだけでなく、一人ひとりの子どもたちに、しっかりと考える機会を与え、それぞれが何をしたらよいかということを考える、きっかけやヒントを与えていただきたいと思います。

#### (教育委員)

- ・ 卒業式・入学式に参加した際も思いましたが、教育委員となり、様々な機会に学校へお邪魔するようになって感じるのは、昔とは違うということです。私が学生だった頃には、もう少しやんちゃな生徒も居たように思いますが、現在はおとなしい、落ち着いた生徒が多いと感じました。海外では、自己主張が弱いと下に見られてしまうこともあります。日本人は主張することが苦手であると言われる。自分の考え、意見をもつことはとても大切なので、日々の授業で是非その力を伸ばしていただければと思います。
- ・ 新潟大学の教育学部で教えた学生が教員となり、何名かが教頭先生になっています。話を聞くと、大変な学校に赴任することもあるようで、夜遅くまで学校で仕事をしていると言っていました。どこも同じで、武豊町の先生方も様々苦勞をされている事でしょう。日々の先生方の教えが、少しでも子どもたちの心に残り、あの時あの先生に教えてもらえてよかったと、思ってもらえるようになるとういと考えます。
- ・ 教育委員になって、教育現場では子どもたちが知らない、見えない所でたくさんの方が動いて、働いていたのだということに気づきました。今後も勉強していきたいと思います。

(教育部長) ありがとうございます。以上をもちまして定例教育委員会を閉じます。

(一同) ありがとうございました。

令和 年 月 日  
署名

.....

.....

.....

.....

.....

作成者.....神谷俊輔